

『プロレタリア通信』

第3号

86年7月15日

1部100円

発行

『プロレタリア通信』編集委員会

- * 万国の労働者団結せよ！被抑圧民族の解放！
- * 帝国主義打倒・プロレタリア独裁・社会主義
- * スターリン主義打倒・国際非合法党の建設！

9・9集会ー9・14現地闘争に総決起せよ！ 革命的マルクス主義の形成と三里塚闘争

革命的マルクス主義者をどのよ
うに、どこから形成するのか、革
命家の組織は如何なる思想と運動
によって何処から組織されるのか、
その契機と枠を限定することはで
きない。しかも、わが同盟は、未
だ同盟としての闘争を同盟のため
の闘争としてたたかいきることが
できないという段階にある。にも
かかわらず、わが同盟は、その歴
史的組織的継承から言って、世界
プロレタリア革命を当面する最大
の任務としており、その実現方法
を實力闘争によるものとしてきて
いる。そこに實力闘争、街頭闘争
も位置づけられているのである。
ひるがえって、革命的マルクス主
義者として先ずもって自己を形成
することは、何よりもマルクスと
レーニンそれ自身を追体験的に確
認することに止まらず、たたかう

人民の先頭にたち、たたかう人民
の現場にあつてはじめて、革命的
マルクス主義者としての自己を形
成しうる。ここに革命家の組織も
ある。そうした意味から言っても、
三里塚闘争における街頭闘争を位
置づけねばならない。
全人民的な大衆闘争を組織する
ことに習熟すること、全人民に訴
える力、全人民を組織する力は、
自らが何時でも何処でも現場に立
ち、現場でたたかうことによつて
自らの思想的確信を高めるほかは
ない。そのような現場として、そ
のひとつとして、三里塚闘争があ
る。
三里塚闘争は、八三年三・八分
裂に至る過程で、すでに重い政治
課題となつてきた。客観的には、
六十年代の全世界的ベトナム反戦
とステューデントパワーに表現さ

れる運動の七十年代後半からの退
潮であり、各帝国主義の資本市場
の再分割と過剰生産にともなうア
メリカ資本主義の相対的地位の低
下、すなわち国際通貨における機
軸国としての地位の低下である。
そのことによつてもたらされた主
要帝国主義間反革命協調（サミッ
トなど）と各国治安部隊（機動部
隊の創出と展開）の圧倒的強化、
国際刑事警察機構の創設などであ
る。国内的には、連合赤軍事件と
内ゲバ三派による三ヶタの殺傷事
件と第二次におよぶつくられた石
油危機である。エネルギー危機は、
ナシヨナリズムを高揚させ、企業
防衛主義労働組合運動に大幅な道
を開いた。とりわけ、三里塚闘争
主体にとつて、八三年三・八分裂
は、いわゆる新左翼のセクト主義
の極めつきとしての内ゲバ主義が、

最もラジカルな大衆闘争の現場に
もちこまれたひとつの典型である。
だがしかし、あしき前衛主義・セ
クト主義を擁護するのみでは、自
己のマルクス主義と革命を実現す
ることはおよそ不可能であり、三
里塚農民の反権力の意志と空港反
対のためにも、百姓をやりたいた
する意欲をも支持したことになる
ない。問題は、独自のマルクス主
義を再構築し、独自の党建設と社
会主義革命の展望を賭けて、三里
塚闘争をたたかうことにある。す
なわち、党建設の展望の下に、三
里塚闘争に勝利することである。
そのことによつて、かつての、現
にあるスターリン主義的前衛主義
を超越したところの、真に断固た
る世界革命の前衛を建設すること
ができるであろう。そもそもスタ
ーリン主義とは、思想の貧困にあ
り、指導の矛盾に由来するのであ
り、その解決を唯一排外主義によ
らざるを得ないところにある。そ
こには、革命的マルクス主義など
あるはずもなく、中核となる指
導力もない。

運動論としての三里塚闘争

生産者と消費者、農村と都市、農民と労働者、現場と支援、こうしたカテゴリーのもとで運動論を構築してきた。われわれは、市民運動として三里塚・芝山農民の反権力闘争に共鳴し、連帯してきた。勿論、これらは、運動の契機、出発点としての原点たり得たとしても、永続的に市民運動に責任をもち、なかんずく、三里塚闘争に責任ある党派として登場しきるには、共同闘争者となり、かつ徹底した民主主義闘争のなかに階級的連帯をつくり出してゆかねばならない。かかる意味において、かつての構造論的カテゴリーを自から打破しつくさなければならぬ。

階級的連帯とは、空疎なアジェンションとしての、「階級闘争として闘え」「社会主義をめざして闘え」といった青共同(準)や共産同全国委のような説教でも、ましてや一切の政治闘争の踏絵としての三里塚(中核)闘争のこともない。

民主主義闘争は、プロレタリア民主主義闘争にまで突き進まざるを得ないとこの運動としてある。この闘争や運動を支える想いこそ思想として、個々の哲学として獲得されるところの政治展開でなければならぬ。すなわち、全世界の、全国の被支配階級と共有する思想を、実践することによって闘争現場に権力をうちたてること、ここに直接民主主義がある。ブルジョア民主主義は、私有財産(生産手段)所有制と、あるがままの国家と法律を認めたとこの個人主義としてあり、この所有制と個人主義こそ、市民運動やブルジョア民主主義運動の契機である。しかし、その徹底は、人民の共同性を生み出さざるを得ない直接性を要求する。ここに、あらゆる大衆闘争の共産主義的自覚の萌芽があるのだ。したがって、「社会主義と労働組合の結合」など、ブルジョア民主主義を十分理解することなく主張しても、単なるゴロ合わせにしかならないことは自明なのだ。

運動や闘争の視点主義の意義はここにある。

われわれは、かかる観点から独自に、三里塚芝山反対同盟と連帯し、三里塚闘争を組織するものである。

反対同盟の「空港より緑の大地を!」、青年行動隊の「ワンパック、共同購入」運動は、彼ら自身の十数年の闘いのひとつの結論で

あり、政府・権力に迎合しない手段としての生活を自ら生み出すところの創意である。生活の根っこのところでも抵抗の意志を実現し、ある種の共同体をつくり上げてきた。ここに、党派排除の論理も働きたであらう。われわれは、そ

成田用水・警備用道路を粉砕せよ!

れ故に、単に支援としての闘争や共同購入であっては、共同闘争者失格の烙印を、農民大衆によって押されざるを得ない。すぐれて、自覚的で意志的な「市民・消費者」運動を、非前衛たる農民によって突きつけられていることを自覚せねばならない。

しかしながら、無数の三里塚を全国に組織し得ないとするならば、しかも、年々強化されるこの中央集権国家に対して、何処までも階級闘争の観点を貫徹しようとするとき、反ファシズム統一戦線なる国民運動では断じてなく、まして高度福祉国家・社会政策などとして資本主義が変わるはずもなく、より支配・抑圧が強められ、侵略国家となっていくのに対して、人民の無限の抵抗の権利は留保されるべきである。ブルジョア民主主義を利用しつつも限界があり、現場にあっては、警察自らが法を踏みにじっている。だとするならば、なおかつ、人間解放に向けた正義

の闘いと抵抗の権利は、無限でなければならぬ。資本主義的生産様式のもとでの、工場における労働者の自主管理思想とならぶ共同体思想では、不十分である。ここに、都市ゲリラ、パルチザン闘争の意義があるのだ。

今夏―今秋の三里塚闘争に勝利し、空港を廃港に追いこめ!

三里塚現地は、緊迫した雰囲気につつまれている。五月二十九日「一九九〇年度二期完成のために今年度中に工事を開始する」と空港公団総裁秋富は表明した。

三里塚現地での公団用地は、三重の有針鉄線で囲われ、間にはミゾ(堀)さえつくられている。資材道路はもとより、間道さえ整備され、私服の乗用車が四六時中徘徊している。二期工事は、自民党の圧倒的勝利のもとで、強権的に開始されんとしているのである。

その第一は、成田用水にからむ空港排水用貯水池であり、第二に三本の警備用道路であり、第三に駐車場の建設である。

貯水池とは、排水施設のない空港のため、谷津田を貯水池とし、

雨水と排水を同時に成田用水に排出しようとするものである。高谷川の上流―実は、空港二期工区の隣であり、用水路は排水路となるという何ともオソマツなものである。農民の営農のためであるとしてきた成田用水は、文字通り空港のためのものであったことが、はからずも暴露された。このような貯水池建設を断じて許してはならない。

三本の警備用道路とは、第一に小川源・直克さんら木の根部落と横堀の反対同盟本部を貫く道路で、明らかに強制破壊に道を開く直線の警備用道路であり、第二は、中谷津から横堀を横断し、空港に直結する中谷津・横堀警備道路、さらに、空港から辺田・横堀へぬける辺田警備道路である。

いまや、三里塚反対同盟の最も頑強な抵抗の砦となつてゐる木の根―横堀―辺田を暴力的に解体しようとしていることは火をみるより明らかである。

七・六三里塚現地集会において、反対同盟員の多くは、この二十年間のたたかひをふりかえつて、更なる実力闘争の最先頭にたつことを宣言した。とりわけ、最近の空港公団と空港警察の無法ぶりに対して、抵抗権の無制限化をよびか

けたのである。われわれは、この反対同盟のよびかけに断固こたえるべく、今夏―今秋の三里塚闘争に決起しよう。

九・九独自集会を圧倒的に組織しぬき、九・一四三里塚現地闘争に隊伍をなして総決起しようではないか！

全世界の闘う人民は、帝国主義者と独裁者打倒闘争にいたるところで死を賭して決起している。韓国での労働者と学生の決起、南アフリカ共和国での侵略者・独裁者打倒の全人民的決起、フィリピンではついにマルコス独裁を打倒した。わが日本独占資本主義は、韓国、フィリピンはもとより、南アフリカに対しても、アメリカ帝国主義につく侵略者として振舞っている。われわれは、わが帝国主義の侵略・反革命を阻止し、帝国主義を打倒しなければならぬ。

二期決戦は、成田用水・警備道路としてその前哨戦は戦われてきた。七・六衆議院・参議院国会同日選挙における自民党の圧勝と公安警備の大幅な機構替と増強は、いわゆる過激派つぶしのみならず人民のあらゆる抵抗闘争の圧殺を目的としている。それらは、抵抗闘争を現場においてあらかじめ封じ込めようとするものである。し

かも、この数年間の労働争議に対する最高裁判例は、ことごとく企業・資本の経営権と管理権を容認したものとあり、地域住民訴訟もまた、公共の重視・国の安全などを盾に住民の敗訴に終つてい。こうした社会的背景のもとで三里塚現地における公安警備は、日常的無法な弾圧をしかけてきている。

われわれは、抵抗の場ひとつひとつを死守することを通じてのみ敵の要塞を瓦解させてゆかねばならないであろう。警備道路・二期用貯水池粉碎七・六現地闘争に決起し、七・一三東峰裁判支援新宿街頭情宣を貫徹した。さらに、七・二二東京集会に参加し、九・一四三里塚横堀現地闘争に一大決起しようではないか。

独自集会の圧倒的勝利を！

九月九日豊島勤労福祉会館をうめつくす大集会をかちとろう。

九月七日、沖繩ではようやく戦争が終結した。八・一五が公式には敗戦の日となつてゐるにもかかわらず、沖繩では日本軍による虐殺をふくめて、九月まで戦闘が続けられ、その犠牲は計り知れないものがある。われわれは、反天皇

の旗をかかげて、九月九日東京における沖繩住民の追悼をかねた独自集会をかちとらなければならぬ。八十七年沖繩において、海邦国体が開かれようとしており、天皇訪沖が予定されている。天皇訪沖を東京で阻止することこそ、沖繩で戦闘的にたたかう人々との真の連帯となるであろう。

九・六、九・七は、在日沖繩人による全国各地での集会があり、それらに参加しつつも、先ずもつてヤマトンチュウ自らの決起なしには、琉球・沖繩の人々との連帯を語ることはできない。九・九集会を圧倒的に勝利し、九・一四三里塚現地闘争に連続的に決起しようではないか。われわれは、なにがなんでも百名の壁を突破し、三里塚―沖繩―反天皇戦線に断固たる隊列をもつて登場しよう。

九・九は、今秋三里塚、来夏秋沖繩闘争を射程にした一大政治集会としなければならぬ。

九・九にもてる力のすべてを集出し、なにがなんでも集会場を立錐の余地なくうめつくさねばならない。

スローガン

一、日本帝国主義の侵略反革命空港粉碎！プロレタリア国際主

チェルノブイリの 原発事故について

四月末に発生した、ソ連のチェルノブイリ原子力発電所の事故は、人類史上最大、最悪の事故であった。これは、一九七九年のアメリカのスリーマイル島の原発事故以上の規模であった。ソ連の原発事故が初めて明らかにされたのは、スエーデン当局が放射能を探知したからであった。スエーデンからの照会に対して、ソ連当局は事故の事実をなかなか認めなかった。ようやく、五月十四日になって、ゴルバチョフ書記長はテレビ演説を行い、「定期的な閉止中に、炉の出力が突然増大した。かなりの量の水蒸気が発生し、それに続く反応によって水素が生成され、その水素が爆発し、炉を破壊し、それにともなって放射性物質が放出

- 義の旗の下断固たたかい抜こう！
- 一 農地死守、実力闘争をともにたたかおう！
- 一 二期実力阻止、成田用水・警備道路粉砕！
- 一 東峰十字路闘争の地平を断固防衛せよ！権力による報復デモツチ上げ、逮捕、起訴重刑攻撃粉砕！
- 一 沖繩国体反対！天皇訪沖を阻止せよ！

された。」と述べて、チェルノブイリ原子力発電所の四号炉が事故を起こしたことを公然と認めた。事故の発表を遅らせたソ連当局の官僚主義と秘密主義は問題であるが、何よりも重要なのは、この事故によって大きな被害がたてたことである。初めは数人であった死者が増加し、近くに住んでいた数万人の市民が、ガンや遺伝障害の危険にさらされ、ソ連の生態系が汚染され（ソ連の酪農は大打撃をうけたと言われている）、放射能が世界中にバラまかれたことである。ユーゴスラビア政府とフィンランド政府とオランダ政府は、原発計画を中止した。台湾、メキシコ、イタリアの議員や新聞の論説委員

は、原発エネルギーの再考を要求している。スリーマイル島の事故後、スエーデンは原発を徐々に廃棄している。同様に中国は、すでに上海近辺の原発計画を中止している。

国際原子力機関の報告書によれば、世界の電力の六分の一は原子力発電でまかなわれている。一九八五年末で、二十六か国の三百七十四の原子炉が稼働しており、そのうち百はアメリカのものである。西ドイツでは二十の原子炉があり、さらに十三が建設中である（野党の社会民主党は、原発の段階的廃棄を主張している）。ベルギーでは、電力の六十％を原発にたっている。フランスでは、電力の六十五％を原発に依存している。台湾は、電力の五十九％を原発から得ている。韓国では、電力の十八％を原発から引き出している。日本には、すでに三十二の原発が存在している。ある調査によれば、一九七一年から一九八四年まで、十四か国で百五十一の事故が起こったと言われている。

日本の政府、自民党は、原発の安全性が確立されていないにもかかわらず、日本の原発は安全であり、今後も建設し続けていくと言っている。これは、言語道断である。政府、自民党と同様に原発推進の立場に立っているのは、新自由クラブ、民社党、公明党などである。これらの政党は、日本のエネルギー源としての原発の重要性を強調し、安全対策を充実していくと述べている。しかし、こうした「安全対策」には何の保障もないのである。無責任という他はない。われわれは、原発の安全性がしっかりと確保されない限り、原発の運転は中止すべきだと考える。無責任なジャーナリストや評論家は原発の安全性を強調しているが、全然実証されていないのである。

また、原発からつくられるプルトニウムは、原爆の材料になるのであり、従って原子力発電所をもつということとは、原爆を潜在的に持つことなのである。われわれは核兵器を廃絶する立場からも、原子力発電に反対する。

さらに、今日の原子力発電は、他民族と被差別人民と労働者階級を犠牲にした資本主義文明を維持するためのエネルギー政策によって位置づけられているのである。今日の帝国主義文明を維持するためには、膨大なエネルギーが必要である。原子力発電所の集中している国々は、主にアメリカ、ソ連

の二つの超大国と、その他の帝国主義諸国及びその従属国であることを想起しなければならぬ。日本帝国主義は、世界一の債権国として世界に君臨し、人民大衆にいわゆる消費幻想をおおっている。高蓄積と比較的高度な生活水準を維持するための大量消費こそ、危険でいまわしい原子力発電所を必要とする原因なのである。われわれには、自然を破壊し、人間を破壊する原子力エネルギーはいらない。もし原子力エネルギーなしに、現在の生活水準が維持できなくなるとしても、それでもかまわない

ではないか。ある試算によると、原発のコストは、電力一キロワットを起すのに十三円、石油火力発電は十七円、石炭火力発電は十四円、LNGでは十七円、水力発電は二十一円、地熱発電は十円以下である。原子力、石油、石炭は輸入に依存しているが、再生可能な資源である水力と地熱発電とは国内でまかなえるのである。われわれは、多少コストが高くても、国内で調達できるエネルギー資源を開発し、もっとエネルギーを節約した質素な経済をつくり出すべきだと考える。現代日本には、自

動車、クーラー、ネオンサイン、電気製品などがあふれている。こうしたものの中には、実生活には本当は不要なものがたくさんある。われわれは、目先の便利さに惑わされて、自然を破壊し、労働者階級と人民大衆を滅ぼす資本主義的生産様式の災厄を忘れるべきではない。一説によると、アメリカ帝国主義は、本国で世界エネルギーの六分の一を消費していると言われている。世界人口五十億人中の二十五分の一にすぎない国が、こうした膨大なエネルギーを使うというのは異常なことである。ソ

連もアメリカ帝国主義に追従し、チエルノブイリの事故後も、それよりも大規模な原発をつくり出す計画を発表している。自分たちの手で制御できないエネルギー源を次々と建設するのは自殺行為である。われわれは、労働者階級人民の犠牲と他民族の犠牲によってしか生き延びることができない資本主義的生産様式を廃絶することによってのみ、原子力発電を使わない文明社会を建設できると考える。全世界の原子力発電所は、廃棄されなければならない。

7・6衆参同日選挙の結果について

七月六日におこなわれた衆議院と参議院の選挙結果は、周知の如く自民党が圧勝した。とくに衆議院では、五百十二議席中三百四議席を占め、自民党が圧倒的強さを示した。自民党の大勝利は、野党勢力、とくに社会党と民社党の大敗北を生み出した。社会党は百の大台を割り八十六議席に、民社党

は二十七議席に減った。この大勝利を背景にして、自民党は中曽根首相の任期延長を決定し、行政改革、国鉄の分割民営化（労働運動つぶし）、大型間接税導入（実質的増税）の推進を誓った。自民党のニューリーダーたち（竹下、安倍、宮沢）は、この予想外の大勝利に直面して、当面は中曽根に協

力しつつ、自己の政治的能力を示すことによってライバル同士の競争を続けていくことを余儀なくされた。第三次中曽根政権は、帝国主義的国民統合を一層推進するだろう。すなわち、軍備増強および弾圧機構と弾圧立法（刑法改悪、監獄法改悪、スパイ防止法等）の整備を背景にして、行政改革を一層推進し、大型間接税を導入し、国鉄の分割民営化を強行するだろう。そして円高対策として、若干の内需拡大策は実施しつつも、あくまでも独占資本中心の国際競争力を強

化し、第三世界への侵略をますます強めるだろう。さらに、教育改革と称して、独占資本に使いやすいすぐれた労働力を生み出すために、学校現場での規律・秩序を強化し、教員労働者に対する統制を強めるだろう。また、膨大な産業予備軍、とくに生活保護者、老人女性等に対しては、福祉費を一層削減することによって抑圧を強化するだろう。そして天皇一族を使って、日本国家への感情的・イデオロギー的統合をすすめるだろう。われわれ労働者階級は、組織労働者の党（とくに社会党）の大敗北を目撃して、現場での闘争を強

めざるをえない立場におかれてい
る。保革伯仲を背景にした議会内
の取引政治は、もはや通用しない。
われわれは、自民政権の帝国主
義的国民統合の推進による抑圧の
強化に対して、これを暴露し、反
撃していく陣形をうち固めなけれ
ばならない。そして広範な統一戦

線を形成することによって、運動
を活発にしていく必要がある。帝
国主義的抑圧は、労働者階級の中
下層と小ブルジョア・農民に向け
られるだろう。われわれは、こう
した人々と共同の闘いをおし進め
その成果を党建設に還元してい
なければならぬ。

1986 世界を見る

今、地球上に五十億の人間が住
んでいる。そして、その半数が飢
え、日々数百万人が餓死している。
一方では、毎日の食事の材料をジ
エット機で「本場」から取りよせ
肥え太っている帝国主義者がいる。

の船底深く身をひそめて渡ったア
ジアの国から、今彼女達は観光ビ
ザ片手にジエット機で日本に逆輸
入されている。

て、東南アジアの女性たちは、低
賃金労働が売春におとしめられて
いる。工場で汗水たらして働いて
も、昔の日本の女工哀史的な苦し
みしか得られない。そして、貧し
い一家が生き延びるために、まず
娘が売られることが、東南アジア
諸国で今現実に行われている。か
つて「からゆきさん」が、石炭船

これが、帝国主義世界支配の現
実である。民族差別、女性差別、
あらゆる差別・抑圧を生み出す帝
国主義、この現実を変革するため
に、私達は正面の敵である日本帝
国主義の姿を正確に分析し、日本
労働者階級の世界史的任務を明確
にし、日本帝国主義を打倒し、プ
ロレタリア独裁を組織する革命的
理論と指導能力をそなえた党建設
を確固として克ち取らねばならぬ
い。

'87天皇訪沖を許すな!

沖縄人にとって天皇制とは何か!

沖縄戦の実相から問い返そう

9.9 沖縄戦最終終結 41周年集会への誘い

映画
発言

沖縄戦、未来への証言
五日沖縄人として(木田武二)知念政光(高克征)
その他 参加者のとび入り歓迎



必見の映画—見つめ直してみよう沖縄戦の実相を
よるとと 沖縄の歴史

カラー・55分
未来への証言
主催：東京・天皇制を考える会

会場費 ¥500。(学割 ¥300)
と き 86年9月9日(火) PM 18:30~21:00
と ころ 豊島勤労福祉会館 (5F 和室)
国電・地下鉄・西武・東上線 池袋駅下車(5口)
(会場のTel 03-980-3131 ext)

ふんぞ、沖縄戦がいつ終わったか、存知ですか?
ふう、沖縄戦の終わった日として六月二十三日が考えられ、その日には無条件で降参する勅諭が下されたといわれています。しかし、一九四五年六月二十三日は、日本軍の最高指揮官が住民の安全や部下の将兵のことを顧みることなく、ひたすら「天皇に申上りたい」といって自殺した日に過ぎません。司令官をなくした日本軍は、司令官の死も知らずに米軍の重砲の中でのりら戦を続け、戦線にまきこまれた住民の死は種々、あまつさえ日本軍による住民虐殺も行なわれました。八月十五日の「玉音」放送も「敵のテマだ」と耳をみかす、心を砕いて米軍の侵襲を受けよとする住民や兵士も激怒し続けたのです。しかも主戦場にのりらかた宮古、八重山にいた部隊は無砲のままで戦線維持を続け、住民を犠牲にばかり、住民の食糧を奪い取っていました。そして九月七日にとうとう、ようやく米軍の旗揚げを受け降伏したのです。すでに「本土」にいた兵士は、それだけの報復へ復讐しはじめていた頃でした。

数かきりない非戦闘員の生命を奪った(沖縄戦)とはなんだったのかのせしめようか? それは、天皇の國家を守るため、「団体」を擁護するための和平交渉の道を採っている間の時間稼ぎとして、住民を犠牲とした消滅戦を続けさせた、これが沖縄戦の実相でありました。

主題歌 作詞 原 隆子
歌 原 隆子
広い大地に
白い花にまこめ
あまひのたのびよう
この広い大地は いくとほり
青い空さき 赤く燃えあがり
ひとすじの涙をおと
すべてのものが消えた……
時は過ぎ
ただ あたがいひさし
明日をためて
そして今!
私は生命を見た。
この広い大地に、ひっそりと
金色の穂をあげて
まっ白い花びらが 一枚一枚
天に向ってひらいていく
大地に眠る人々の生命が
私の心に 今よみがえる。
静かに明けた この広い大地で
だれかが眠っている
自由の歌を